

序

大腸腫瘍の内視鏡診療において重要なことは「内視鏡挿入手技・診断学・治療手技」の3つで、どれ1つ欠けてもきちんとした診療は成立しない。大腸内視鏡がスムーズに挿入できなければ、正確な診断や治療はできないし、内視鏡の挿入手技を習得できても、正しい診断学が身についていなければ正しい治療法の選択はありえない。また、治療手技が未熟であればきちんとした治療はできない。このような背景のもと、2019年に羊土社から「大腸内視鏡診断の基本とコツ ～エキスパートならではの見かた・着眼点で現場の疑問をすべて解決～」という大腸内視鏡診断学をマスターする実践的入門書を発刊させていただいた。この本は、Clinical Question 形式で読みやすく、若い先生に必要なコツやノウハウを各執筆者に包み隠さず提示いただいたおかげで、大好評を得て多くの内視鏡医の先生に愛読いただいている。

今回、その姉妹書の治療編として、「大腸EMR・ESDの基本とコツ ～エキスパートならではの治療手技・戦略を伝授～」を、前回同様に、私が企画・監修し、編集作業を永田信二先生（広島市立安佐市民病院）と岡 志郎先生（広島大学）に担当していただいた。その内容は、内視鏡治療の介助・トレーニングの基本、内視鏡治療（手技別の）の適応、内視鏡治療に必要な機器・器具、実際の手技（ポリペクトミー、EMR、ESD）、各手技のトラブルシューティングなどに関して、若い先生の日頃の疑問を解決できる、あるいは知っておくべき具体的なコツ/ノウハウとピットフォールなどをその道の熟練者に手の内すべて暴露していただいております。これまでになかった診療現場で即戦力となる内視鏡治療指南書を完成することができた。本書では、診断編と同様にCase studyによる理解度チェックも行える構成になっている。大腸腫瘍の内視鏡治療に携わる先生が本書をくり返し熟読していただければ、必ず明日からの診療にお役に立つものと確信している。本書が大腸内視鏡診療に日夜研鑽を積み重ねられている若い先生のお役に立てることができれば望外の喜びである。

最後に、大変お忙しいなか快く執筆をお引き受けくださった諸先生に厚く御礼申し上げますとともに、このような機会を与えてくださった羊土社の諸氏に感謝する次第である。

2020年初秋

広島大学大学院医系科学研究科 内視鏡医学
広島大学病院 内視鏡診療科/IBDセンター
田中信治